

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18530463

研究課題名 (和文) 公的年金制度による脱貧困化に関する研究

研究課題名 (英文) Studies of De-destitutions by Public pension system

研究代表者

鎮目 真人 (SHIZUME MASATO)

同志社女子大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：50285508

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：公的年金制度、新制度論、脱貧困化

1. 研究計画の概要

(1) 基礎年金における貧困を予防する機能について明らかにする。

(2) 年金制度の政策変化の評価枠組みついて分析する。

(3) 年金制度の制度変化のタイプに応じた制度変化の要因について検討する。

2. 研究の進捗状況

(1) 基礎年金の貧困予防機能については、各国の年金制度を4つに類型化(ベーシック・インカム型年金、準ベーシック・インカム型年金、セーフティネット型年金、保険原理型年金)してその機能を明らかにした。

(2) 制度変化の評価枠組みについては、「ビックバン」改革、「代替」改革、「転換」改革、「放置」改革という4類型を構築した。

(3) 制度変化の要因については、女性の政治参加と財政制約がベーシック・インカム型年金の実現を左右することが明らかになった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究課題に応じて、計画的にデータを収集するなどして目的を遂行したことによる。

4. 今後の研究の推進方策

今までの研究成果を統一的にまとめ、その成果を学会や研究会等で発表する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

鎮目真人、大阪におけるホームレスとソーシャル・インクルージョン、福祉社会学研究、4号、165-172、2007年、査読無

鎮目真人、公的年金改革の類型と2004年年金改革による制度のゆくえ、社会政策研究、6号、11-29、2006、査読有

鎮目真人、国民年金制度と基礎的生活保障—2004年公的年金改革による生活保障のゆくえ—、社会福祉学、47巻1号、5-17、査読有

[学会発表] (計2件)

鎮目真人、漸進的制度変化の分析枠組みと公的年金改革—戦後の公的年金改革の経緯を辿って—、日本社会福祉学会第56回全国大会、2008年10月12日、岡山県立大学

鎮目真人、基礎年金制度の類型とその決定要因—ベーシック・インカムとの関係に焦点を当てて—、日本社会福祉学会第55回全国大会、2007年9月23日、大阪市立大学

[図書] (計2件)

①下平好博、三重野卓編、ミネルヴァ書房、グローバル化のなかの福祉社会、2009、51-77

②武川正吾編、法律文化社、シティズンシップとベーシック・インカムの可能性、2008、134-159

[その他] (計2件)

パネルディスカッション報告、MASATO SHIZUME, Typology of Public Pension Reform and Pension Reforms in Japan:

Basing on Institutional Theory, The Present Conditions and Future of Social Work and Social Security in South Africa and Japan, 2007.8.8, University of KwaZulu-Natal.

シンポジウム報告、MASATO SHIZUME, Comment on "Is there a crisis of welfare state?", Social Integration and National Identity in Multi-Cultural Societies, 2006.7.6, Kyoto Univ.